

## 〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、25～28℃台を示し、平年に比べかなり高めでした。

## 〔漁況概要〕

- 中小型まき網——月夜間とシケで出漁日数が少なかった。西彼地区では、マイワシなどが1日1統当たり15トンの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。五島奈留地区では、マアジが1日1統当たり1トンの水揚げで、前週の1.4倍（前年を下回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり14トンの水揚げで、前週並み（前年を下回った）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり2kgの水揚げで、前週の33%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では1日当たり13kgの水揚げで、前週の10%（前年を下回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり28kgの水揚げで、前週の17%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では1日当たり525kgの水揚げで、前週の13%（前年を下回った）。五島奈留地区では、1日1統当たり4kgの水揚げで、前週の19%（前年を下回った）。
- 定置網——対馬西岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり20kgの水揚げ。対馬東岸地区では、タチウオなどが1日1統当たり84kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり217kgの水揚げで、前週並み（前年を下回った）。

## 〔日本海スルメイカ情報〕

今期（9/30～10/4の5日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、大和堆周辺で操業。赤イカは北太平洋で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～山陰沖～能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。鳥取県西部（沖合船）では4日延48隻、総計5,736箱、1航海最高362箱、平均124.7箱。スルメイカ（20～30入）5,720箱、ケンサキイカ（2立半～4立）16箱の混獲となった。

（漁業情報サービスセンターより）

## 〔お知らせ〕

漁海況通信「第5-21号 6県ケンサキイカ情報（令和5年度 第5号）」「第5-22号 9月の五島灘・五島西沖・壱岐水道・対馬東水道の観測結果」を発表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>